

日本人の教養

教養という言葉はすでに死語になりつつある。教養とはかつて特定の階層の人々がもっていなければならない人との付き合い方、つまり作法の一つであったから、その階層がなくなった今は教養という言葉だけが生き残っている。大学でも教養教育という言葉で、単なる知識の習得を目指している。いま教養という言葉を使うとすれば、現代社会のありかたに立って、考え直さなければならない。その意味で現代における教養のあり方を探してみたい。

講師 阿部 謹也 氏

(前共立女子大学長、一橋大学名誉教授)

略 歴：昭和38年 一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了
昭和48年 小樽商科大学教授
昭和51年 東京経済大学教授
昭和54年 一橋大学教授
昭和62年 " 社会学部長
平成4年 " 学長
平成10年 " 名誉教授
平成11年 共立女子大学長 (平成14年まで)

研究分野： 西洋社会史

受賞等： 昭和55年 サントリー学芸賞， 昭和56年 大佛次郎賞，
平成9年 紫綬褒章

主要著書： 「ハーメルンの笛吹き男」(平凡社)， 「刑吏の社会史」(中公新書)
「中世の窓から」(朝日新聞社)， 「ヨーロッパを読む」(石風社)
「阿部謹也著作集」(筑摩書房)， 「教養とは何か」(講談社現代新書)